



Personal MBA

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

資本主義は富において判断を有する。倫理的な社会への責任は、他方における現実である。

企業は必ず社会への責任を有する。これが正しい社会との共生である。

企業効率性の追求は、時代における新規企業システムにおいてその新しい生産性と効率性における利益基準の転換とその安定化を実現できる。

開発とデザインという企業の基盤は、その市場の先端性を実現できる。これらは企業における基準の転換において可能なのである。

決断と実行は結果に至る鍵である。

最も高い目標は、行動において、現実化が可能である。

優れたビジョンは深耕された理解である。

企業の永続は自社製品とサービスの市場における受領環境において決定するのである。

企業において技術は可能性である。

計画は必ず実現を約束しなくてはならない。

企業は自らの健全性において自己を与えられる。これらは企業の倫理性と安泰した利益の約束なのである。

誠実さは企業の正しい選択である。

コスト競争力の強さは、将来において、企業の飛躍を与える。

技術優位性は価格アドバンテージとともに、コアコンピタンスの構築を実現できるのである。